

陸前高田の未来をつくる対話

第二回開催レポート

【開催日：2012年2月5日(日)】



赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業

陸前高田創生ふるさと会議

ミラツク 大木浩士

開催概要

■プロジェクト名:「陸前高田の未来をつくる対話」

■開催目的:

- ①「陸前高田にいらっしゃる方々」と「各地で活動されているコミュニティリーダーの方々」が対話を行い、課題や実現したい事柄を共有し、それらを解決・実現するリソースを知るきっかけの場とすること。
- ②陸前高田にいらっしゃる方々に「対話の場」を体験していただき、「自由に話し合える場作りのノウハウ」を知り、学んでいただくこと。(自ら場作りが行えるようになること)
- ③参加者同士のネットワーキング。

■主催:NPO法人・陸前高田創生ふるさと会議

共催:NPO法人・ミラツク

※「陸前高田創生ふるさと会議」と「ミラツク」の団体概要は、後ろのページをご参照ください。

■開催日時:2012年2月5日(日)13:00~18:00

※今後1ヶ月に1回の頻度で、継続的に開催の予定

■開催場所:竹駒地区コミュニティセンター

※住所:岩手県陸前高田市竹駒町字館44

■参加者:20名

※陸前高田から9名、他の地域から11名が参加。



※この事業は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成を受け実施しています。

第二回参加者

■陸前高田からの参加者

	氏名		11/12 参加	第1回 参加	所属	備考
1	福田利喜さん	ふくだとしき	○	○	陸前高田創生ふるさと会議・副理事長	主催者
2	佐々木一義さん	ささきかずよし			陸前高田市議会議	
3	平野俊幸さん	ひらのとしゆき			オフィス ヒューマンブリッジ	
4	浦谷収さん	うらやしゅう		○	亜細亜大学／高田のこと語っぺ会	
5	熊谷与志昭さん	くまがいよしあき		○	株式会社マイヤ	大船渡より参加
6	福田紀雄さん	ふくだとしきとしお		○	うごく七夕まつり実行委員会・事務局長	
7	中野里美さん	なかのさとみ	○		なつかしい未来創造株式会社／ソシオ・エンジン	
8	種坂奈保子さん	たねさかなおこ			陸前高田 未来商店街 事務局	
9	島村亜紀子さん	しまむらあきこ			前田建設工業株式会社 陸前高田作業所	

■陸前高田以外の参加者

	氏名		11/12 参加	第1回 参加	ミラツク	所属	備考
1	大木浩士	おおきひろし	○	○	ミラツク	博報堂	コーディネーター
2	西村勇也さん	にしむらゆうや	○	○	ミラツク・代表理事	ダイアログBar・代表	ファシリテーター
3	井口奈保さん	いぐちなほ	○		ミラツク	TEDxTokyo	
4	山本真さん	やまもとまこと			ミラツク	キープ協会	
5	大矢中子さん	おおやなかこ		○		被災地をメディアでつなぐプロジェクト 笑顔311・代表	ビデオ録画
6	熊倉敬聡さん	くまくらたかあき	○		ミラツク	慶応義塾大学理工学部・教授	
7	熊倉聖子さん	くまくらせいこ					お子さんもご一緒
8	広部知森さん	ひろべかずもり				NPO・寄付のしっぽ(石巻を中心に活動)	
9	藤賀雅人さん	ふじがまさと				明治大学・理工学部・助手(高田のこと語っぺ会を支援)	
10	松山 真さん	まつやままこと				立教大学コミュニティ福祉学部福祉学	
11	下里祐美子さん	しもさとゆみこ				聖心女子大学	

前回からの進捗の共有

参加者同士で簡単な自己紹介をした後、「陸前高田創生ふるさと会議」の福田様、「高田のこと語っぺ会」の浦谷様より、前回開催からの進捗などについて共有をしていただきました。



福田様



浦谷様

■「陸前高田創生ふるさと会議」 福田様より

前回(12/18)開催したこのプロジェクトの対話の場づくりを参考に、「陸前高田の未来を語ろう会」を開催しました。

開催日は2012年1月14日(土)と1月29日(日)です。

陸前高田市に住んでいる方々が、それぞれ50人弱ほど参加しました。自分のことを話すのにあまり慣れていない高田の人たちですが、いざ話し始めてみるとそれぞれの方から様々な意見や思いが出されました。今までこのような話し合いの場がなかったな、と思うとともに、自分も(市議会議員という立場にいましたが)住んでいる方々の話をあまり聞いてこなかったなと痛感しました。

また、行政が見ている視点と生活者の視点は、こんなにも違うのかという気づきもありました。

「陸前高田の未来を語ろう会」で話し合ったことを、今後具体的にどう進めていくのかを考えていきたいと思ひますし、話し合われた内容を陸前高田の内外に共有・発信していくことも行っていきたいと思ひます。

■「高田のこと語っぺ会」 浦谷様より

陸前高田の若い方々に集まってもらい、話し合う場を作っていきたいと考えています。

現在の課題は、「どうしたら若い人達に来てもらえるか」です。

次回の開催は2月19日(日)、場所は陸前高田市の米崎コミュニティセンターを予定しています。

これからの世代が陸前高田にどう関わっていけるのかを考えていきたいと思ひます。



自己紹介

参加者が3人1組になり、「普段何をしているのか」「なぜここに来たのか」などについて自己紹介を行いました。

自己紹介を行った後は全員で車座に座り、自己紹介を通じて感じたこと、気づいたことの共有を行いました。



■自己紹介を通じて感じたこと、気づいたことの共有 (共有されたお話の一部)

「石巻は外部の方々と上手にお付き合いしていると感じます。それに比べ陸前高田では、外の人達をうさんくさく感じているところがあると思います」

「陸前高田には仕事がなく、いかに雇用を作っていくのかが重要な課題とのお話をうかがいました」

「コーディネーターが不足していると強く感じます。何かを始めようと思っても、その調整役がないのが現状です」

「若い人の思いや動きが少ないように感じます。どこか他人まかせのようになっているように感じています」

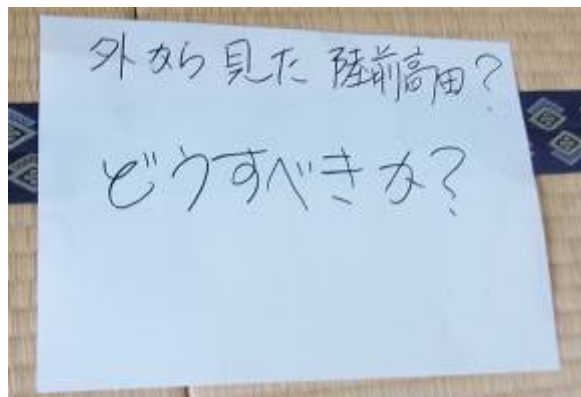
「陸前高田だけではなく、大船渡などを含めた『気仙地域』全体でどう取り組んでいくのかという視点も重要、とのお話がありました」

「お祭りや演劇など、社会的・文化的支援をどう行っていくのかについてよく考えます。『押し付け』にならずにどう支援ができるのかについて、陸前高田にいらっしゃる方々とお話できればと思います」



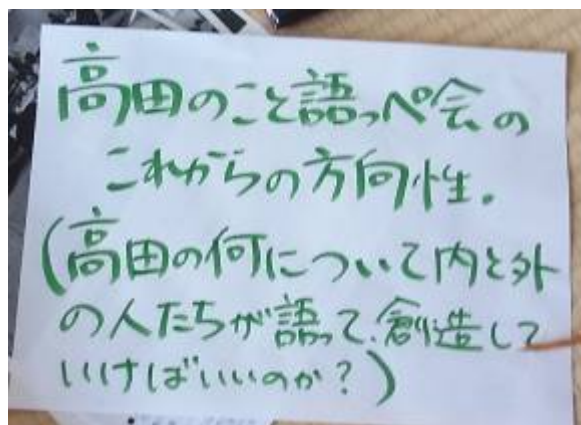
参加者自身がテーマを出し、対話を実施

参加者が、「自分が話してみたいテーマ」を出し、そのテーマに関心のある方々が集まり、対話を行いました。



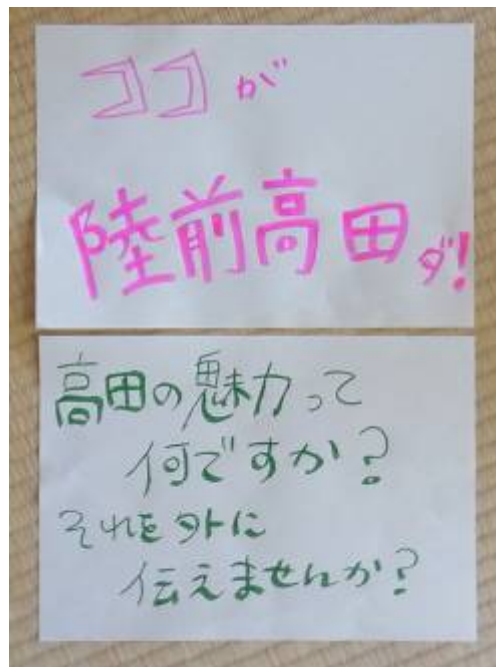
『外から見た陸前高田とは？
それを踏まえ、今後どうすべきなのか？』

陸前高田うごく七夕まつり実行委員 福田紀雄様より



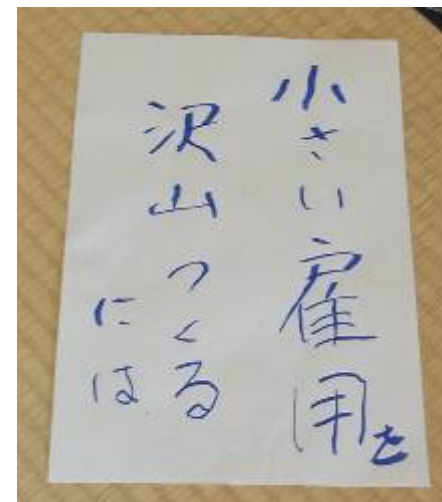
『高田のこと語り会のこれからの方向性について。
何について話し合っていけばいいか』

高田のこと語り会 浦谷様より



『陸前高田らしさとは？』
『陸前高田の魅力って何ですか？
それを外に伝えませんか？』

なつかしい未来創造 中野様、
陸前高田 未来商店街 種坂様より



『小さい雇用をたくさんつくっていく、
そのためのアイデアを出したい』

立教大学 松山様より

参加者自身がテーマを出し、対話を実施



参加者自身がテーマを出し、対話を実施

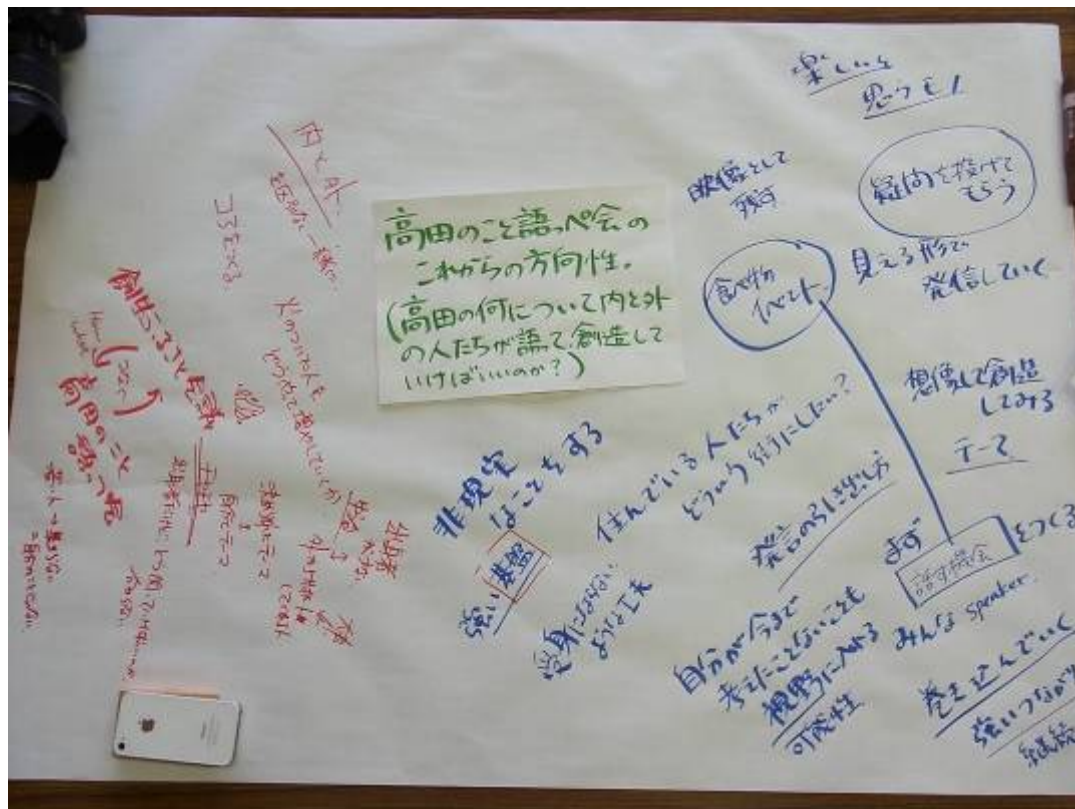
『陸前高田らしさとは？』『陸前高田の魅力って何ですか？ それを外に伝えませんか』



- ・高田は、子供たちがあいさつをしてくれます。
- ・お金がなくても買い物ができる信頼関係があります。
- ・若者たちが年配者に引っ張り出されて話をするような飲み会が以前はありました。
- ・年長者の意見は絶対で、若者は意見が出しにくいというところがあります。
- ・東京との比較で、「こんな時高田ならどうする？」を整理してみて発信したら面白いのではないかと思います。
- ・素朴さが高田のいいところ。飾らずに素朴さを活かして情報を発信してみてもどうかと思います。
- ・観光だけの情報ではなく、ボランティアの情報も含めて情報が発信できるとよいかも知れません。(情報誌やWEBでの発信)

参加者自身がテーマを出し、対話を実施

『高田のこと語っぺ会のこれからの方向性について。何について話し合っていけばいいか』



- ・火のついた人をどう増やしていくかが課題です。
- ・高田の内と外で、区別なく引き込んでいく。仲間をつくっていくが必要だと思います。
- ・小さな会であっても続けていくことが大切との意見もいただきました。
- ・携わりたいと思っている人を少しずつでも取り込んで、強い基盤を作っていくことが大切。
- ・会の主催者から話題を出すだけでなく、参加する人達からも疑問を投げかけてもらうことも大切、そんな話もできました。

参加者自身がテーマを出し、対話を実施

『外から見た陸前高田とは？それを踏まえ、今後どうすべきなのか？』



- ・陸前高田は閉鎖的な地域だと思います。
- ・震災前は「青年部」「OB会」「女性部」など様々なコミュニティがありました。1つのコミュニティの中はとても強いつながりがありました。その強いつながりがあったために、再編成するのが現在は難しい状況です。
- ・若いコミュニティも今はバラバラ。
- ・かつてのコミュニティをうまく活用できるような仮設住宅の再編成も必要かもしれません。
- ・年配者の人達とうまく付き合いながらやっていく必要性はあります。直接話をするだけでなく、外部の若い人達がクッション役になるような(話しの聞き役になるような)そんなコミュニケーションのとり方もよいかも知れないとの意見が出ました。
- ・高田には強いリーダーシップを持つ人が何人かいる。その方々が若い人達と接点を持つような場も必要かも知れないとのお話もありました。

参加者自身がテーマを出し、対話を実施

4つのグループからの対話の内容を共有していただいた後に、気づいたことや補足などについて話し合う時間を設けました。



■話し合われた内容の一部

- ・現在陸前高田には宿泊できる場所が少ないと思います。民泊などができるところを増やすことはできないでしょうか。
- ・10kmくらい離れたところに空き家が結構あります。そういうところを宿泊所にするのも検討してみても面白いと思います。
- ・昭和50年代には民宿ブームがありました。震災前は農家民泊の企画をつくろうとの話もありました。
- ・ただ、地元の人達は「関わるのが面倒くさい」と思いがちです。
- ・高田は「おすそ分け文化」でした。畑で野菜などを作ると、それを親戚などに配っていました。
- ・知っている人とは関わるけど、知らない人とは関わりたくない、というのも高田の人達の気質です。
- ・今までは半自給自足の生活でした。
- ・高田には不良はいません。義理人情に厚い性格です。
- ・神戸の長田地区は、建物の復興はできたがコミュニティが崩れてしまったと聞いています。そのようなことにはしたくありません。
- ・高田の人達の人情味のあるところを残した復興ができるとういんですね。
- ・今の行政の復興計画では、それはムリだと感じてしましますが・・・。

今後、この対話の場をどのようにしていきたいかについて

「今後、この対話の場をどのようにしていきたいか」について、4人1組になり話し合いを行いました。



今後、この対話の場をどのようにしていきたいかについて



- ・地元の人達も参加するし、他の地域からもいろいろな人達が参加して欲しい。そして触れ合ったりマッチングができたりするとよいと思います。
- ・人脈を作って生きたいし、お知恵もいただきたい。どなたにどんなことがご相談できるのかを知っていきたいです。
- ・内(高田)と外(高田以外)のよりよい連携について、知恵を出し合ったりツールの紹介をしあえるようなそんなコミュニケーションの場になればよいと思います。
- ・高田の人達が「これをやりたい」を声をあげたときに相談できる関係づくりを行っていきたいです。

- ・高田は地域のつながりが強く、年配の方々の声強い地域。
- ・地域の知恵や文化をつくってきた方々とお話してみたい(学びたい)との思いもあります。

- ・飲み会をやりたい。お酒が入ってやるコミュニケーションは違うと思います。本音もやすいと思います。
- ・この会場でもお酒が飲めるとのこと。次回の対話の場が終わった後にでも、皆でお酒が飲めるとよいかも知れません。
- ・飲み会であれば地元の若い人達も参加しやすいかも知れません。

- ・参加者が増えていくためには「楽しい会」であることも大切。
- ・若者が参加したいと思えるように、飲み会があったり女子大生に声がけしても良いかも知れません。
- ・すでに現地に入っている若い方々にも声をかけてもよいと思います。
- ・地元の女性が興味を持つように魅力的なお土産があってもよいかも知れません。

- ・魅力的なアイデアがたくさん出されても、それを実際に動かす人がいないのが現状です。
- ・ボランティアでこちらに住んでいる方々に、もっと声をかけてもよいかも知れません。
- ・実際に動ける方、アイデアを地元で形にできる方、コーディネーター役にになれる方が必要です。

- ・ボランティアセンターは、場所的に動きにくいところにあります。またボラセンの方々は地元の若い人達と関わりを持ちたいと思っています。
- ・対話の場につくった模造紙を貼っておける場所があるとよい。活動がわかる場所を作りたいです。

◎次回以降の開催にむけて

- 地元の若い人に参加して欲しい (飲み会の開催/女子大生の参加)
- ボランティア団体にも声がけ (現在50くらいの団体が入っているが横の連携がとれていない)
- 魅力的が伝わるよう、チラシを作って配布 (WEBは見ない/カタイ内容のものはダメ)

本日対話の場に参加した感想などを共有

最後にまた車座になり、本日の対話に参加した感想などを、全員で共有しました。



「陸前高田で商店街を作ることが仕事です。この場ででてくるアイデアを実現させることを考えていきたいと思っています。楽しいことにはエネルギーが出ます。楽しさを感じられる方向で、みんなでチャレンジできたらいいなと思います」

「何かしたいけど、子供がいるので動くことができませんでした。もんもんしていました。娘と一緒にこの場に来ることができたことが嬉しかったです」

「女子大生の端くれなので、できることがあるかもしれません。このような場で地元の方からお話を聞いて、支援できることを考えていきたいと思っています」

「若い人が意見がいいにくい、参加しにくい、とのお話がありました。次回は若い人が来れるような会にしていければよいと思いました」

■共有された感想の一部

「前は、ただ話をしただけだったような印象でした。今回は目的をもって話ができたと感じます。進むのは少しずつかも知れませんが、今後もぜひ続けていけたらと思います」

「前は自分の中でカタク考えていましたが、今回はリラックスして参加できました。人それぞれ色々な考えがあるので、次回もぜひ話を聞いてみたいと思いました。人と人をつなぐ役ができるとうれしいと思います」

「地元の方とお話することがあるものの、いつも同じ方ばかりです。今回は色々な方とお話ができ、とても楽しかったです。中の人と外の人が話しをすると、いろんなヒントが生まれてくるように思います」

「コミュニティをどう継承していくかが課題だな、と思いました」

「今後、この場をどのようにしていくのか具体的な目標のようなものが必要かも知れないと思いました」

「皆さんのお話を聞いてとても勉強になりましたし、感じるものがありました」

「こんなに多様な方々が集まるとは思っていませんでした。地元の方が参加しやすい場作りも大切だなと思いました」

「高田の人達は、話し合いの場を経験したことがほとんどありません。対話の場に参加すると皆さんびっくりしますし、参加すると話もです。自分たちで対話する場を、風土を、根付かせることができると考えています」

「自分としても、もっとこの地を知りたいと思いました。地元の人達をもっと知りたかったです。自分にとって何ができるのかを考えたいと思います」

「前回より前身したと思いました。地元の人を集めるのは難しいことです。でも、まず来てもらって話をしてみることが大切だなと思いました。話すことで、どんな街をつくっていくのか考えるきっかけになると思います」

次回以降の開催日程

■開催日時:

第三回・・・2012年2月26日(日)13:00～18:00ごろ

※終了後に会場にて「飲み会」を開催します。

第四回・・・2012年3月25日(日)13:00～18:00ごろ

- ・12:55までには会場に集合をお願いいたします。
- ・第五回目以降も開催していく予定です。

■開催場所:竹駒地区コミュニティセンター

※住所:岩手県陸前高田市竹駒町字館44

お忙しい中とは存じますが、ご参加 お声がけのほど、よろしくお願い申し上げます。

※「陸前高田創生ふるさと会議」について

NPO法人陸前高田創生ふるさと会議 設立趣旨書

1 趣旨

平成23年3月11日午後2時46分に発生した宮城県沖を主震源とする大地震による大津波が東日本沿岸を襲来しました。特に、私たちが暮らす陸前高田市は市街地の大半をはじめ沿岸地域に未曾有の被害をもたらしました。

死者不明者合わせて2300人以上と人口の1割を一瞬にして失い、併せて、住宅や事務所、店舗など多くの財産、生活の糧である職場をも失いました。

さらに、本市の主産業である農業・漁業にも壊滅的な被害を及ぼしました。

また、電気、水道、通信といったライフラインも壊滅的な被害をこうむり、事業者の献身的な復旧作業が行われていますが、いまだに水道は復旧の目途さえ立ちません。

このような中、これまで陸前高田市で暮らしてきた私たちがこのまちの復興に寄与することが出来ないかと考え、陸前高田創生まちづくり会議を立ち上げることにいたしました。

この会は、**陸前高田市の将来像を多くの皆さんとともに考え積極的な情報発信を行い、本市を応援してくれる全国各地の皆さんと陸前高田をつなぐ役割を担うとともに、復旧・復興そして新たな陸前高田を作り出すために市民の目線で考え、種々の活動を行うこと**によって一日でも早い復興と継続的な陸前高田市のまちづくりを目指すものです。

これまで、この町で普通に暮らしてきましたが、この大震災で暮らしが崩壊しました。陸前高田で生まれ、そして暮らしている自分たちだからこそ、様々な経験と強い思いがあります。だからこそ、**お仕着せの復興ではなく自分たちが将来に向けて胸を張って残せるまちを作りたい、まちづくりに少しでも寄与したいと考え、一人ひとりが持つ力を結集し活動をする組織として設立するもの**です。

2 申請に至るまでの経過

3. 11東日本震災に被災した以後、様々な形で陸前高田市の今後を考える機会が多く、且つ、多くの研究者や実務家との交流する機会が多く、陸前高田の未来を市民の目線から多角的に検討することが必要と考え、設立に至ったところである。

また、現在、入浴支援活動を行っており、災害復興へ向けた様々な活動を行う母体としても法人としての活動が財政及び組織運営状適切と考え設立するものである。

平成23年5月11日

理事長：八木澤商店・河野和義会長
副理事長：福田利喜

※「ミラツク」について

NPO法人ミラツク

ミラツクは、2011年にダイアログBar代表の西村勇也氏を中心に設立されたNPOです。
”共に未来を創る”をテーマに、海外のパートナーらと連携しながら国内を中心に対話の場やコミュニティ作り、ユースリーダーの育成を通じてCollective Innovationの実践に取り組んでいます。

ミラツクのビジョン

1. Collective Innovationの器

NPO法人ミラツクは、“未来を創る”をテーマに、Collective Innovationを社会に生み出す器として設立されました。

Collectiveであるためには人と人が真に協力する必要があります。

それは単純な共同プロジェクトやアイデアの結合ではなく、信頼に基づいた人としての協力です。社会に真の協力が生まれた時、70億という人の数は社会に課題を生み出す負担ではなく、社会の様々な課題を解決するためのエネルギーになるはずです。

2. 課題の解決から課題が生まれない社会づくりへ

世界には本当にたくさんの課題があります。

貧困、食料問題、金融危機、子どもの虐待、地方の衰退、家族の崩壊、エネルギー問題。

これらの社会課題は、この10年間を見ても、減るところか増々複雑で困難なものになっています。複雑な課題は増え続け、目に見えやすい課題は場所を移して続いている。それが現実の社会の状況ではないでしょうか。

ミラツクは、社会に課題が生まれる状況自体を変えていくことに取り組みます。

人と人が協力し、人と自然が協力することができれば、地球上にいる70億人は社会に課題を生み出す重荷ではなく社会をより良くしていくための源泉として創造的な力を発揮することが出来るはずです。

3. 共に未来を創る社会へ

ミラツクは、共に未来を創る社会を目指して、①協力と社会課題の解決を生み出す対話の場、②コミュニティを支えるユースリーダーの育成、③Collective Innovationセンターの設立の3つに取り組めます。

